

別 添 資 料

- 資料1 主要面談者
- 資料2 現地調査日程
- 資料3 評価グリッド
- 資料4 緊急援助隊派遣時のチェックリスト
- 資料5 派遣ごとの工夫・改善点
- 資料6 現地調査収集資料リスト

資料1 主要面談者

【国内インタビュー対象者】(敬称略)

氏名	担当業務等(国際緊急援助隊派遣当時)	現所属(インタビュー当時)
難波 充典	パキスタン救助チーム団長	外務省国際緊急援助室長
小林 正憲	パキスタン救助チーム副団長	警視庁警備部管理官
福岡 淳	パキスタン救助チーム隊員	警視庁警備部警備第二課
石橋 俊彦	パキスタン救助チーム隊員	JICA国際緊急援助隊事務局
市原 正行	パキスタン救助チーム隊員	JICA国際緊急援助隊事務局
甲斐 達朗	パキスタン医療チーム団長	大阪府立千里救命救急センター所長
大友 仁	パキスタン医療チーム隊員 インドネシア調査チーム/医療チーム隊員	JICA国際緊急援助隊事務局
横川 太	パキスタン医療チーム隊員	JICA兵庫
高橋 亮	JICAパキスタン事務所	JICAアジア第二部
大田 孝治	JICA国際緊急援助隊事務局 (パキスタン、インドネシア国内対応)	JICA青年海外協力隊事務局
山田 好一	インドネシア調査チーム/医療チーム副団長	JICA国際緊急援助隊事務局
富岡 譲二	インドネシア医療チーム副団長	福岡和白病院救急センター長
野村留美子	インドネシア医療チーム隊員	JICA国際緊急援助隊事務局
大野 憲太	インドネシア医療チーム隊員(調査班)	JICA地球環境部
内藤 智之	インドネシア医療チーム隊員(調査班)	JICAアジア第一部
辻 尚志	JICAインドネシア事務所	JICA総務部
小山 達也	—	JICA国際緊急援助隊事務局
横井 博行	JICA国際緊急援助隊事務局	JICA国際緊急援助隊事務局

【現地調査インタビュー対象者】(敬称、一部略)

(1) パキスタン

氏名	所属	役職
Lt Gen. Nadeem Ahmad	地震復旧復興庁 (ERRA)	Deputy Chairman
Muhammad Saleem Sethi	Economic Affairs Division, Ministry of Economic Affairs	Joint Secretary (Japan/ADB)
Mazhar Iqbal	Economic Affairs Division, Ministry of Economic Affairs	Section Officer (JBIC)
Major Absar	パキスタン軍	バタグラム統括
Haji M. Ayaz Khan	Member of Provincial Assembly	Minister
Amin-ul- Haq	District Coordination Office	District Coordination Officer
Dr. Zafeer Hussain	District Coordination Office	Executive District Officer (Health)
Mukhtar Ahmad	District Coordination Office	Executive District Officer (Support & Logistics)
Nawab Zada Khan	District Coordination Office	Nazim (DCOの次のポスト)
Mohammad A. Khan T.	Representative District Police	(I/O District Coordination Officer 代理)
Haq Nawaz Khan	District Reconstruction Unit	Monitoring & Evaluation Officer
Mohammad Iqbal	District Reconstruction Unit	Junior M. & E. Officer
Farid Khan	District Reconstruction Unit	Programme Manager
Dr. Mahboob-ur-Rehman	District HQ Hospital	Medical Superintend
S. Adeel Abbas	Save the Children	Manager
当時の患者及びその家族 (7名)		
貝原 孝雄	JICAパキスタン事務所	所長
深澤 晋作	JICAパキスタン事務所	所員
Sohail Ahmad	JICAパキスタン事務所	Senior Programme Officer
Lt Col (R) Yawar Aftab	JICAパキスタン事務所	安全対策顧問(I/O警備担当)
Adil S. Karim Mokhir		(元)JDR医療チーム通訳

(2) インドネシア

Budi Atmadi Adiputro	国家災害管理調整庁 (BAKORNAS)	Prime Secretary
Suprpto	State Secretariat (SETNEG)	Head of Bureau for Technical Cooperation
Rika Kiswardani	State Secretariat (SETNEG)	Head of Bilateral Technical Cooperation Division
Dr. Lucky Tjahjono, M. Kes	Ministry of Health	Head of Emergency Response & Recovery Section, Crisis Center
Dr. Bondan Agus Suryanto, SE, MA	Yogyakarta Provincial Health Office (<i>Dinkes DIY</i>)	Head
Sugeng Dwi R., SKM	Yogyakarta Provincial Health Office (<i>Dinkes DIY</i>)	

Trisno Agung Wibowo, SKM, MKA	Yogyakarta Provincial Health Office (<i>Dinkes DIY</i>)	Staff of Health Service Division
Drs. H. Gendut Sudarto Kd, BSc, MMA	Bantul Regional Secretariat (<i>Sekda</i>)	Regional Secretary
Gandung Bambang Hermanto	Bantul Regency Health Office (<i>Dinkes</i>)	Head of Health Service Division
Walijan	Bantul Regency Industry, Trade, & Cooperatives Office (<i>Dinas Perindagkop</i>)	Head of Planning Section
Novi Astuti, ST	Bantul Regency Administration (<i>Pemda</i>)	Head of Technical Development Administration Sub-Division, Development Administration Division
F. X. Bambang Triyanto	Bantul Regency Development Planning Office (<i>BAPPEDA</i>)	Head of Population & Labor Sub-Directorate, Socio-Culture Directorate
Dr. Puji Pujiono	(現) Presidium of the Indonesian Society for Disaster Management (MPBI)	(元)Deputy Area Coordinator of UN Coordination Center for Yogya & Central Java
Adik Bantarso	(現) State Secretariat (SETNEG)	(元)Head of Cooperation Bureau of BAKORNAS
Jules Korsten	IOM Jakarta Office	(元)Head of IOM sub-office in Yogya
Dr. Ana Budi R., Sp.S	ムハマディア病院	Acting Director
Dr. Anwarudin Latif, Sp.An	ムハマディア病院	OK & ICU Manager
Jauhar Arifin	ムハマディア病院	Household Affairs Manager
Widiastuti	ムハマディア病院	<i>Bina Dakwah & Fitrah (Bindatra)</i> Manager
Latief Widodo (Ahli Madya Keperawatan)	ムハマディア病院	Assistant ICU Manager
Budi Santosa, Sp.Si	ムハマディア病院	Assistant Education & Training Manager
Yusuf Dp., Spsi	ムハマディア病院	Assistant Administration Manager
Mulyadi Bajuri	ムハマディア病院	Marketing Staff
Amanda D. Suharnoko	MADIA (現地NGO)	Chairperson
Hermandari Kartowisastro	MADIA (現地NGO)	Aliansi Nasional Bhinneka Tunggal Ika
Mrs. Tohir	ムハマディア病院前コピー店主夫人	
Sewon村住民男性6人、女性25人		
室永 武司	在インドネシア日本大使館	二等書記官
清水 彩子	在インドネシア日本大使館	三等書記官
花里 信彦	JICAインドネシア事務所	次長
坂根 宏治	JICAインドネシア事務所	主査
永見 光三	JICAインドネシア事務所	所員
岩井 伸夫	JICAインドネシア事務所	所員
徳丸 周志	JICAインドネシア事務所	企画調査員
Dinur Krismasari Señor	JICAインドネシア事務所	Program Officer
Erina Nakamura S., S.H.	JICAインドネシア事務所	Program Officer
Hari Ramadhan	JICAインドネシア事務所	Program Officer
Bagus Subiantara	PT. JAC Indonesia	(元) JDR医療チーム通訳
Robi Wibowo	Gajah Mada University	Lecturer (元JDR医療チーム通訳)
E. Suherman	Gajah Mada University	Lecturer (元JDR医療チーム通訳)
Andis Razaka		(元) JDR医療チーム通訳
安達 恵子		JOCV (理学療法士)
山根 千絵		JOCV (看護師)

資料2 現地調査日程

日順	月日	曜日	平井団員、関谷団員	佐藤団長、小坂団員	宿泊先
1	6月24日	日	成田発11:25 (JL725) → ジャカルタ着16:50		ジャカルタ泊
2	6月25日	月	【インドネシア】 09:00 インタビュー (JICA事務所) 11:00 インタビュー (日本大使館) 14:00 インタビュー (BAKORNAS) 16:30 インタビュー (JICA事務所) 19:00 インタビュー (元通訳ボランティア)		ジャカルタ泊
3	6月26日	火	09:30 インタビュー (国家官房:SECNEG) 13:30 インタビュー (MADIA: 国内NGO) ジャカルタ発19:35 (GA216) → ジョグジャカルタ着20:35	成田発11:25 (JL725) → ジャカルタ着16:50	
4	6月27日	水	09:00 インタビュー (ジョグジャカルタ州保健局)		ジョグジャカルタ泊
5	6月28日	木	06:00 インタビュー (元UN調整官)		ジャカルタ泊
6	6月29日	金	09:30 インタビュー (保健省) 13:00 インタビュー (BAKORNAS)		ジャカルタ泊
7	6月30日	土	ジャカルタ発12:45 (TG434) → バンコク着16:15 バンコク発19:50 (TG505) → ヨーロッパ着22:30		ヨーロッパ泊
8	7月1日	日	ヨーロッパ発14:00 (PK386) → イスラハート 着14:50		イスラハート泊
9	7月2日	月	【パキスタン】 09:00 JICA事務所表敬・打合せ 09:45 インタビュー (経済省) 11:00 インタビュー (JICA事務所ナショナルスタッフ・元通訳) 14:00 インタビュー (地震復旧復興庁:ERRA) 15:50 インタビュー (JICA事務所ナショナルスタッフ) 移動 イスラハート → アブダブ		アブダブ泊
10	7月3日	火	移動 アブダブ → パタラ 10:00 インタビュー (軍) 11:20 インタビュー (県事務所: 医療関係者) 13:00 インタビュー (県事務所: 復旧復興関係者 (医療)) 14:55 インタビュー (Save the Children) 移動 パタラ → アブダブ		アブダブ泊
11	7月4日	水	移動 アブダブ → パタラ 13:00 インタビュー (県事務所関係者) 15:30 インタビュー (JDR医療チームの診療を受けた元患者) 移動 パタラ → アブダブ		アブダブ泊
12	7月5日	木	09:00 インタビュー (JICA事務所ナショナルスタッフ・元通訳) 移動 アブダブ → イスラハート		イスラハート泊
13	7月6日	金	09:30 JICA事務所報告 イスラハート発15:10 (TG510) → バンコク22:15		
14	7月7日	土	バンコク発00:20 (TG640) → 成田着08:30		

資料3 評価グリッド (1)パキスタン救助チーム

参考情報・評価項目		評価設問 (必要な情報)	判断基準 (判断材料)	情報源													
大分類	小分類			外務省	事務局	JICA関連部	派遣チーム	在外大使館	在外事務所	被災国政府・外務省	軍・警察	保健省	県政府	他ドナー	国際機関・NGO	受益者	派遣時データ
参考情報																	
災害情報詳細	各種統計	死者、行方不明者、負傷者、被災孤児、建物(病院、学校など)、住宅倒壊、インフラ、経	集計数値														
	国内災害時対応	被災者、被災地にどのような対応が行われたか	活動内容														
	外部災害時支援	各外部者の支援活動	被災者、被災地にどのような対応が行われたか	活動内容													
STOP																	
Speed: 迅速性	派遣前状況把握	被災地の状況はどのように伝わっていたか	状況把握度														
		要請内容はどのようなものか	状況把握度														
		被災国の災害対応能力等はどのようなものであったか	状況把握度														
	派遣準備の迅速性	派遣手続き(旅券、査証、航空便確保等)は迅速であったか	派遣手続きに要した時間を過去の事例と対比して判断														
		資機材の手配(調達・梱包・通関・運送・設置等)は迅速に行えたか	手配に要した時間を過去の事例と対比して判断														
	移動	日本と被災国間の移動手段の確保は適切であったか	想定される最短の移動時間と対比し、派遣時の状況を考慮した上で判														
被災国内の移動に問題はなかったか		想定される最短の移動時間と対比し、派遣時の状況を考慮した上で判															
携行機材の運搬に問題はなかったか		想定される最短の移動時間と対比し、派遣時の状況を考慮した上で判															
活動開始	活動開始は迅速に行えたか そうでない場合、何が原因であったか	想定される最短の開始時間と対比し、派遣時の状況を考慮した上で判															
Target: ターゲット	被災地のニーズ	要救助者数、負傷者数、倒壊建物数、被災者数・生存者(倒壊建物から救出された人)	状況を把握し、支援の必要度を判断														
	活動拠点選定の合理性	どのような戦術・戦略で日本チームに対して出動要請・活動サイトの決定を行っていたのか	被災国の戦術・戦略の妥当性														
	救助チームの活動状況	どの程度「人的被害の低減」を果たすことができたのか 搜索建物(数・面積)・救助者数(発見および生存者数)	どの程度被災地の救助活動の不足を補えたか 過去の類似案件(災害種別、要員構成等)を勘案して、活動成果はどの程度と判断でき														
	派遣期間	派遣期間(撤退時期)は適切であったか	救助ニーズの推移と72時間原則からみて														
	他の援助機関とのデマケ	他の援助機関との物理的重複がなかったか	他援助機関の活動地と活動内容(要救助者を取りあうような状況に無かったか)														

参考情報・評価項目		評価設問 (必要な情報)	判断基準 (判断材料)	情報源														
大分類	小分類			外務省	事務局	JICA 関連部	派遣 チーム	在外 大使館	在外 事務所	被災 国政府・外務省	軍・ 警察	保健 省	県政 府	他ド ナー	国際 機関・ NGO	受 益者	派遣 時デ ータ	活 動報 告書
Operation:オペレーション																		
1) 情報	情報収集	情報の入手方法、体制は適切か	どのような入手方法、体制がとられ、それにより活動に有益な情報が得られたか															
	通信状況	通信環境に問題はなかったか	通信状況と問題があった場合の対応策から判断															
2) 要員	人員構成	どういうメンバーが、どういう研修を済ませているか	メンバーの経験、受講研修内容からチーム能力を判断															
		災害の種類に対して、救助隊員の専門性が整合していたか また、その人員構成・規模は適切であったか	災害の種類と隊員の専門性の対比															
		班分け・指揮命令系統は適切か	班分け・指揮命令系統は活動の実施上、円滑に機能したか															
	サポート要員	現地補助員(通訳)の手配は適切だったか	活動を遂行する上で、通訳の能力、人数は必要十分であったか															
3) 技術	捜索・救助内容	捜索法、救助法等の水準はどうだったか	捜索・救出に必要な技術を擁していたか															
4) 資機材	資機材の内容	捜索・救助の内容等と携行資機材の整合性はとれていたか	不足資機材の有無、不要資機材の有無、追加補充資機材の有無															
	資機材の引渡し	携行資機材の引渡しの有無およびその内容	先方ニーズと引渡しリストから判断															
	その他	それらの利用実態はどうか	利用されたか(ているか)															
		管理上の問題はあったか	資機材を利用するに当たって、メンテナンス、整理などに問題はなかったか															
5) 調整・協力	相手国政府との協調関係	情報交換が行なわれたか	情報交換の方法・内容の妥当性を検															
		被災国政府との関係で、人員、物的、その他支援が得られたか	得られた支援とその有効性															
	他の機関(国際機関、NGO、他国の救助チーム等)との協調	他の救助チーム(国内および他国)との調整・役割分担の内容はどのようなものだったか	他の救助チームとの調整・役割分担の有無 あった場合、その内容															
		他の救助チームとの共同作業を行う上で、どのような問題点が生じたか	他の救助チームとの協調・共同での救助活動の有無 あった場合、問題点、その対策・対応はどのようなもの															
	日本関係機関との連携	医療チーム、自衛隊部隊等との連携はあったか	連携の有無 あった場合の連携効果を検討															
現地公館、JICA事務所との関係	被災国の現地公館との関係で、後方支援はあったか	後方支援の有無 あった場合の支援効果を検討																
	被災国のJICA事務所との関係で、後方支援はあったか	後方支援の有無 あった場合の支援効果を検討																

参考情報・評価項目			情報源																	
大分類	小分類	評価設問 (必要な情報)	判断基準 (判断材料)	外務省	事務局	JICA 関連部	派遣 チーム	在外 大使館	在外 事務所	被災 国政府・外務省	軍・ 警察	保健 省	県政 府	他ド ナー	国際 機関・ NGO	受 益者	派 遣時 デー タ	活 動報 告書		
																			6) 安全性	労働安全の確保
Presence: プレゼンス	派遣チームによる広報	援助コミュニティの中でJDRの存在と貢献が認知されていたかどうか	日本チームの存在、活動内容に関する関係者の記憶																	
	事務局による広報	国内広報活動の内容およびその頻度	内容の質と量、成果から見た手段と頻度の適切性																	
	現地報道機関	報道ぶり(記事の扱いとその内容)	報道の数と内容																	
	我が国報道機関	報道ぶり(記事の扱いとその内容)	報道の数と内容																	
	国際報道	報道ぶり(記事の扱いとその内容)	報道の数と内容																	
	相手国政府機関	どのような謝辞等を得たのか	謝辞の内容																	
その他	活動の振り返り	PDMは理解できていたか	PDMに対する理解度																	
		現場の活動はPDMに基づいて行われたか	活動中のPDMの意識度																	
		活動ガイドラインを理解していたか	活動ガイドラインに対する理解度																	
	復興や中長期的な災害防止の取り組みへの関与	現場の活動は活動ガイドラインに基づいて行われたか	活動中の活動ガイドラインの意識度																	
		自分のTORと残すべき記録を明確に意識していたか	自分のTORの理解度																	
	総合判断	被災国の復興対策に繋がる活動の有無とその内容(例:被災国政府への活動報告)	復興対策に資するチームの活動の有無 あった場合の有効性の検討																	
		日本の他の援助ファシリティとの連携に繋がる活動の有無とその内容	連携に資するチームの活動の有無 あった場合の有効性の検討																	
	阻害・貢献要因	努力の程度と達成度はどれくらいであるか	自分の努力の程度と達成度を自己分析																	
		その差を生じさせた要因は何か	自己分析																	
	研修の成果	上記以外で、活動の成果へ影響を及ぼした阻害・貢献要因はあったか	STOPの観点から活動の成果へ影響を及ぼしたと考えられる阻害・貢献要因を列挙																	
研修の改善ポイント	活動に役立った研修内容は何か	何の研修がどのように役立ったか																		
工夫・改善点	改善あるいは追加すべき研修内容は何か	何が問題だったので、どのような研修が必要か																		
	派遣のたびに改善したポイントは何か	問題点と改善ポイント																		
	その成果は如何に	改善の成果																		

○: データ収集 ●: 派遣時収集情報、日報などの既存情報 ◎: インタビュー

資料3 評価グリッド (2)パキスタン医療チーム

参考情報・評価項目		評価設問 (必要な情報)	判断基準 (判断材料)	情報源															
大分類	小分類			外務省	事務局	JICA関連部	派遣チーム	在外大使館	在外事務所	被災国政府・外務省	軍・警察	保健省	現地医療機関	県政府	他ドナー	国際機関・NGO	受益者	派遣時データ	活動報告書
参考情報																			
災害情報	各種統計	死者、行方不明者、負傷者、被災孤児、建物(病院、学校など)、住宅倒壊、インフラ、経済的影響	集計数値																
	国内災害時対応	各機関の対応活動	被災者、被災地にどのような対応が行われたか	活動内容															
	国内復興対応	各機関の対応活動	被災者、被災地にどのような対応が行われたか	活動内容															
	外部災害時支援	各外部者の支援活動	被災者、被災地にどのような対応が行われたか	活動内容															
	外部復興支援	各外部者の支援活動	被災者、被災地にどのような対応が行われたか	活動内容															
	復興状況	各種統計	住宅、公共機関、インフラ整備	集計数値															
STOP																			
Speed: 迅速性	派遣前状況把握	被災地の状況はどのように伝わっていたか	状況把握度																
		要請内容はどのようなものか	状況把握度																
		被災国の災害対応能力等はあるようなものであったか	状況把握度																
	派遣準備の迅速性	派遣手続き(旅券、査証、航空便確保等)は迅速であったか	派遣手続きに要した時間を過去の事例と対比して判断																
		派遣人員の選定は迅速に行われたか	選定に要した時間を過去の事例と対比して判断																
	移動	資機材の手配(調達・梱包・通関・運送・設置等)は迅速に行えたか	手配に要した時間を過去の事例と対比して判断																
活動開始	移動	日本と被災国間の移動手段の確保は適切であったか	想定される最短の移動時間と対比し、派遣時の状況を考慮した上で																
		被災国内の移動に問題はなかったか	想定される最短の移動時間と対比し、派遣時の状況を考慮した上で																
		携行機材の運搬に問題はなかったか	想定される最短の移動時間と対比し、派遣時の状況を考慮した上で																
活動開始	サイトの設営は迅速に行えたか。そうでない場合、何が原因であったか	想定される最短の設営時間と対比し、派遣時の状況を考慮した上で																	
Target: ターゲット	被災地のニーズ	被災地の医療キャパシティを越えた患者の存在を確認(被災時医療施設数、医療従事者数、ベッド数、患者数の実数はどうなっていたか)	数と機能の両面における状況を把握し、支援の必要度を判断																
	活動拠点選定の合理性	活動拠点の物理的条件等からみて、サイト選定は適切か	被災者からのアクセス、利便性、被災地病院等との連携、安全性、プレゼンスなどから																
	医療チームの活動状況	どの程度「人的被害の低減」を果たすことができたのか	チームの診療者数(外傷・疾病別)からみて、どの程度被災地の医療サービスの不足を補えたか。それは過去の類似案件(災害種別、疾病構造、要員構成等)を勘案して、どう判断																
		援助は想定した受益者に届いているか	診療患者内訳から判断																
	派遣期間	派遣期間(撤退時期)は適切であったか	被災者の医療ニーズの推移と現地医療機関の復興から判断																
	他の援助機関とのデマケ	他の援助機関との物理的重複が無かったか	他援助機関の活動地と活動内容(患者を取りあうような状況に無かったか)																
Operation: オペレーション																			
1) 情報	情報収集	事前に得た情報は正確であったか	情報と現実との乖離の程度																
		在外公館・JICA在外事務所等から情報が提供されたか	どのような情報が得られ、円滑な活動に役立ったか																

参考情報・評価項目		情報源																		
大分類	小分類	評価設問 (必要な情報)	判断基準 (判断材料)	外務省	事務局	JICA 関連部	派遣 チーム	在外 大使館	在外 事務所	被災 国政府・外務省	軍・ 警察	保健 省	現地 医療機関	県政 府	他ド ナー	国際 機関・NGO	受益 者	派遣 時テ ータ	活動 報告 書	
		情報の入手方法、体制は適切か	どのような入手方法、体制がとられ、それにより活動に有益な情報が得られたか																	
		先発隊、調査チーム、救助チームからの情報はあったか	どのような情報が得られ、円滑な活動に役立ったか																	
2) 要員	人員構成	通信状況	通信状況と問題があった場合の対応策から判断																	
		通信環境に問題はなかったか	通信状況と問題があった場合の対応策から判断																	
	サポート要員	どういうメンバーがどういう研修を済ませているか	メンバーの経験、受講研修内容からチーム能力を判断																	
		診療疾患内訳と派遣された医療隊員の専門性は整合していたか	医療隊員のそれぞれの専門性と患者の内訳との比較																	
		班分け・指揮命令系統は適切か	班分け・指揮命令系統は活動の実施上、円滑に機能したか																	
		ロジ業務に支障はなかったか	すべてのロジ業務が問題なくカバーされたか																	
		現地補助員(通訳)の手配は適切だったか	活動を遂行する上で、通訳の能力、人数は必要十分であったか																	
		現地補助員(警護等)の手配は適切だったか	サイト、隊員の警護に必要な十分な人員が得られたか																	
3) 技術	診療内容	被災地のニーズに適した活動内容であったか	患者のニーズに対し、行われた診療活動に過不足は無かったか																	
		X線、心電図、尿検査などの検査法(含むトリアージ)は有効であったか	これらの実施により、よりよい診療が行われたか																	
	他の必要な処置	ジェンダーに配慮されていたか	どういう配慮が行われ、患者にどのような利点があったか																	
		公衆衛生等具体的な対策・対応は行われたか	公衆衛生指導、精神面のケアなどの実施と効果はどうであったか																	
4) 資機材	資機材の内容	診療疾患内訳等と携行資機材の整合性はとれていたか	不足資機材の有無、不要資機材の有無、追加補充資機材の有無																	
	資機材の引渡し	携行資機材の引渡しの有無およびその内容	先方ニーズと引渡しリストから判断																	
	その他	それらの利用実態はどうか	利用されたか(ている)																	
		管理上の問題はなかったか	資機材を利用するに当たって、メンテナンス、整理などに問題はなかったか																	
		派遣隊員の生活物資が充足または補充できたか	必要生活物資とその充足状況から判断																	
		情報交換が行なわれたか	情報交換の方法・内容の妥当性を検討																	
5) 調整・協力	相手国政府との協調関係	被災国政府との関係で、人員、物的、その他支援が得られたか	得られた支援とその有効性																	
		患者紹介数(受・送)、協調診療体制の内容はどのようなものか 役割分担の内容は?	患者紹介実績、採られた協調体制と役割分担の有無																	
	日本関係機関との連携	救助チーム、自衛隊部隊、NGO等との連携は	連携の有無 あった場合の連携効果を検討																	
		被災国の現地公館との関係で、後方支援はあったか	後方支援の有無 あった場合の支援効果を検討																	
	被災国のJICA事務所との関係で、後方支援はあったか	被災国のJICA事務所との関係で、後方支援はあったか	後方支援の有無 あった場合の支援効果を検討																	
		被災国のJICA事務所との関係で、後方支援はあったか	後方支援の有無 あった場合の支援効果を検討																	
6) 安全性	労働安全の確保	安全体制はどのように確保されたか	宿営地から活動サイトまでの安全性、交通の利便性他																	
		労働安全の視点で、仕事のローテーション・健康管理は適切に行われたか	ローテーションのあり方と隊員の健康状態																	
Presence: プレゼンス	JICA事務所による広報	広報の内容・手段とその頻度	内容の質と量、成果から見た手段と頻度の適切性																	
	派遣チームによる広報	広報の内容・手段とその頻度	内容の質と量、成果から見た手段と頻度の適切性																	

参考情報・評価項目			情報源																		
大分類	小分類	評価設問 (必要な情報)	判断基準 (判断材料)	外務省	事務局	JICA 関連部	派遣 チーム	在外 大使館	在外 事務所	被災 国政府・ 外務省	軍・ 警察	保健 省	現 地医療 機関	県 政府	他 ドナー	国際 機関・ NGO	受 益者	派 遣時 デー タ	活 動報 告書		
		用具・物資・制服・車両等にJDRのロゴ(ステッカー等)は貼付されていたか	貼付の有無と関係者の記憶																		
		援助コミュニティーの中でJDRの存在と貢献が認知されていたかどうか	日本チームの存在、活動内容に関する関係者の記憶																		
	事務局による 広報	国内広報活動の内容およびその頻度	内容の質と量、成果から見た手段と頻度の適切性																		
	現地報道機関	報道ぶり(記事の扱いとその内容)	報道の数と内容																		
	我が国報道機 関	報道ぶり(記事の扱いとその内容)	報道の数と内容																		
	国際報道	報道ぶり(記事の扱いとその内容)	報道の数と内容																		
	相手国政府機 関	どのような謝辞等を得たのか	謝辞の内容																		
その他	活動の拠りど ころ	PDMは理解できていたか	PDMに対する理解度																		
		現場の活動はPDMに基づいて行われたか	活動中のPDMの意識度																		
		活動ガイドラインを理解していたか	活動ガイドラインに対する理解度																		
		現場の活動は活動ガイドラインに基づいて行われ自分のTORと残すべき記録を明確に意識していたか	活動中の活動ガイドラインの意識度 自分のTORの理解度																		
	シームレスな 活動	急性期から亜急性期およびその後へと続く活動に繋がられたか	JDR独自あるいは他ドナー、NGO他との連携の有無 あった場合の有効性の検討																		
	復興や中長期 的な災害防止 の取り組みへ の関与	被災国の復興対策に繋がる活動の有無とその内容(例:被災国政府への活動報告)	復興対策に資するチームの活動の有無 あった場合の有効性の検討																		
		日本の他の援助ファシリテーターとの連携に繋がる活動の有無とその内容	連携に資するチームの活動の有無 あった場合の有効性の検討																		
	総合判断	努力の程度と達成度はどれくらいであるか その差を生じさせた要因は何か	自分の努力の程度と達成度を自己分析 自己分析																		
	阻害・貢献要 因	上記以外で、活動の成果へ影響を及ぼした阻害・貢献要因はあったか	STOPの観点から活動の成果へ影響を及ぼしたと考えられる阻害・貢献要因を列挙																		
	研修の成果	活動に役立った研修内容は何か	何の研修がどのように役立ったか																		
研修改善ポ イント	改善あるいは追加すべき研修内容は何か	何が問題だったので、どのような研修が必要																			
工夫・改善 点	派遣のたびに改善したポイントは何か その成果は如何に	問題点と改善ポイント 改善の成果																			

○: データ収集 ●: 派遣時収集情報、カルテ、日報などの既存情報 ◎: インタビュー

資料3 評価グリッド (3) インドネシア医療チーム

参考情報・評価項目		情報源																			
大分類	小分類	評価設問 (必要な情報)	判断基準 (判断材料)	外務省	事務局	JICA関連部	派遣チーム	在外大使館	在外事務所	被災国政府・外務省	軍・警察	保健省	現地医療機関	県政府	他ドナー	国際機関・NGO	受益者	派遣時データ	活動報告書		
参考情報																					
災害情報	各種統計	死者、行方不明者、負傷者、被災孤児、建物(病院、学校など)、住宅倒壊、インフラ、経済的影響	集計数値																		
	国内災害時対応	各機関の対応活動	被災者、被災地にどのような対応が行われたか	活動内容																	
	国内復興対応	各機関の対応活動	被災者、被災地にどのような対応が行われたか	活動内容																	
	外部災害時支援	各外部者の支援活動	被災者、被災地にどのような対応が行われたか	活動内容																	
	外部復興支援	各外部者の支援活動	被災者、被災地にどのような対応が行われたか	活動内容																	
	復興状況	各種統計	住宅、公共機関、インフラ整備	集計数値																	
STOP																					
Speed: 迅速性	派遣前状況把握	被災地の状況はどのように伝わっていたか	状況把握度																		
		要請内容はどのようなものか	状況把握度																		
		被災国の災害対応能力等はどのようなものであったか	状況把握度																		
	派遣準備の迅速性	派遣手続き(旅券、査証、航空便確保等)は迅速であったか	派遣手続きに要した時間を過去の事例と対比して判断																		
		派遣人員の選定は迅速に行われたか	選定に要した時間を過去の事例と対比して判断																		
		資機材の手配(調達・梱包・通関・運送・設置等)は迅速に行えたか	手配に要した時間を過去の事例と対比して判断																		
	移動	日本と被災国間の移動手段の確保は適切であったか	想定される最短の移動時間と対比し、派遣時の状況を考慮した上で判断																		
		被災国内の移動に問題はなかったか	想定される最短の移動時間と対比し、派遣時の状況を考慮した上で判断																		
		携行機材の運搬に問題はなかったか	想定される最短の移動時間と対比し、派遣時の状況を考慮した上で判断																		
	活動開始	サイトの設営は迅速に行えたか。そうでない場合、何が原因であったか	想定される最短の設営時間と対比し、派遣時の状況を考慮した上で判断																		
Target: ターゲット	被災地のニーズ	被災地の医療キャパシティを越えた患者の存在を確認(被災時医療施設数、医療従事者数、ベッド数、患者数の実数はどうなっていたか)	数と機能の両面における状況を把握し、支援の必要度を判断																		
	活動拠点選定の合理性	活動拠点の物理的条件等からみて、サイト選定は適切か	被災者からのアクセス、利便性、被災地病院等との連携、安全性、プレゼンスなどから判断																		
	医療チームの活動状況	どの程度「人的被害の低減」を果たすことができたか	チームの診療者数(外傷・疾病別)からみて、どの程度被災地の医療サービスの不足を補えたか。それは過去の類似案件(災害種別、疾病構造、要員構成等)を勘案して、どう判断できるか																		
		援助は想定した受益者に届いているか	診療患者内訳から判断																		
	派遣期間	派遣期間(撤退時期)は適切であったか	被災者の医療ニーズの推移と現地医療機関の復興から判断																		
	他の援助機関とのデマケ	他の援助機関との物理的重複がなかったか	他援助機関の活動地と活動内容(患者を取りあうような状況に無かったか)																		
	Operation: オペレーション																				
1) 情報	情報収集	事前に得た情報は正確であったか	情報と現実との乖離の程度																		
		在外公館・JICA在外事務所等から情報が提供されたか	どのような情報が得られ、円滑な活動に役立ったか																		
		情報の入手方法、体制は適切か	どのような入手方法、体制がとられ、それにより活動に有益な情報が得られ																		

その他																				
活動の振り返り	PDMは理解できていたか	PDMに対する理解度																		
	現場の活動はPDMに基づいて行われたか	活動中のPDMの意識度																		
	活動ガイドラインを理解していたか	活動ガイドラインに対する理解度																		
	現場の活動は活動ガイドラインに基づいて行われたか	活動中の活動ガイドラインの意識度																		
	自分のTORと残すべき記録を明確に意識していたか	自分のTORの理解度																		
シームレスな活動	急性期から亜急性期およびその後へと続く活動に繋がられたか	JDR独自あるいは他ドナー、NGO他との連携の有無 あった場合の有効性の検討																		
復興や中長期的な災害防止の取り組みへの関与	被災国の復興対策に繋がる活動の有無とその内容(例:被災国政府への活動報告)	復興対策に資するチームの活動の有無 あった場合の有効性の検討																		
	日本の他の援助ファシリテーターとの連携に繋がる活動の有無とその内容	連携に資するチームの活動の有無 あった場合の有効性の検討																		
総合判断	努力の程度と達成度はどれくらいであるか	自分の努力の程度と達成度を自己分析																		
	その差を生じさせた要因は何か	自己分析																		
阻害・貢献要因	上記以外で、活動の成果へ影響を及ぼした阻害・貢献要因はあったか	STOPの観点から活動の成果へ影響を及ぼしたと考えられる阻害・貢献要因を列挙																		
研修の成果	活動に役立った研修内容は何か	何の研修がどのように役立ったか																		
研修改善ポイント	改善あるいは追加すべき研修内容は何か	何が問題だったので、どのような研修が必要か																		
工夫・改善点	派遣のたびに改善したポイントは何か	問題点と改善ポイント																		
	その成果は如何に	改善の成果																		

○:データ収集

●:派遣時収集情報、カルテ、日報などの既存情報

◎:インタビュー

資料4 緊急援助隊派遣時のチェックリスト

時期	実施内容	補足	チェックリスト	備考
大災害発生	情報収集	被災国事務所へ情報収集依頼 Web、新聞、CNN、Reliefweb、WHOなど	被災状況 安全情報	事務局参集判断と要員配置
	安管情報	危険地域でないか、派遣可能か。 場合によっては、安対チームとの協議、特別決裁要	MOFA、事務所からの情報	
	事務局参集	緊急連絡網の常時更新	外部組織（JPF/SDF）との連絡・連携	調査チーム派遣関連情報の収集
	MOFAに状況確認	外務公電による要請（予定）有無の確認	チーム派遣の可能性有無 チーム規模、活動内容	救助チーム派遣規模の調整(MOFA)
実施準備	人選開始	リーダー、JICA職員	支援委員長・調整部会長への一報	
	(事務局サポート要員の派遣要請)	大規模・複数案件 → 人事部へ	サポート期間 サポート人員数（可能であればJDRのDB)	役割分担
	事務所とのコンタクト	情報交換	電話	広報対応準備
	旅行代理店とのコンタクト チャーターの可否	24時間コンタクト体制依頼 チャーター会社/JAL担当者へ打診	フライト状況、空席数、査証必要の有無 フライト確保の可能性、出発時間予定の確認	地域部との連携
	倉庫管理会社に通報		待機依頼(休日の場合、担当者・出勤者氏名確認)	
	携行機材準備		携行機材リスト（標準+追加）	
	経費概算			
	OA機器の充電		事務局からの搬出リスト	
	診療カルテ、JDRロゴ入り診察券	最新のを事前印刷 最低各1500部	コピーセンターへ	
	Fネット発信	送信分事前準備	送信 未着の再送、リスト確認	
実施内定・決定	隊員への案内・連絡	Fネット回答受付体制の確保	集合場所・時間 気候・風土・留意事項 前泊の必要な隊員分予約-KSA 旅券の確認：有効残期間 成田到着予定時刻 隊員の携帯電話NO	
	医療チーム・業務調整員人選	チームメンバー	医療チーム：委員長・副委員長 JICA職員：人事部 JICA：城島課長	人選の方法
	救助チーム：3庁からの名簿提出依頼	担当者と連絡	各庁参加メンバーリスト	メンバーリスト
	役員先覧作成		担当理事への報告・説明 役員先覧配布	マスコミ関係資料準備
	旅費概算	財務→当番銀行	財務協議用概算書類作成	マスコミ対応方針検討
	現地業務費	財務→当番銀行	示達か、携行か	情報ファイル用資料の整理
	緊急調達		特に必要なものがあれば	V.0500Cへの記載
	結団式会場予約	旅行代理店に会場確保依頼	会場確認	新しい取組みの可能性の検討
	メンバーリスト作成	メディア用（簡易版） 管理用（含：旅券No&生年月日）	和・英文の作成	
	携行機材INVOICE/パッキングリスト (査証の取得)	旅行代理店に依頼	リスト作成 写真 口上書-MOFA	
	配布ファイルの作成	メンバー数 + 数部作成（事務局1部必ず保管）	地図 被災状況 新聞記事 医療・衛生状況 安全管理情報、緊急連絡網（JICA事務所、大使館） 診療投資指針、機材リスト カルテ記入・入力の手引き Stop(Rock) the pain(PDM)	
	事務所に実施体制確認	チームサポート要員	同行職員、ナショナルスタッフ	
	旅費の支出負担行為	担当銀行から外貨受領	各隊員用概算旅費 現地業務費	
	委嘱状作成	国家公務員を除く、救助チームは救助隊員も除く	理事長印	
	実施公信の発出（外務省あて）	公用旅券使用時のみ	公用旅券発給請求依頼&JICA 職員の数次旅券使用願	
	結団式次第作成（マスコミ資料も作成）		理事参加・不参加 MOFAからの参加者役職・氏名	
	事務所宛て便宜供与公電	在外事務所が無い場合、 大使館・領事館へ	派遣概要通知 機材 InVOICE 通関・入国時引取り便宜依頼 燃料・消耗品、水・食糧等 出迎え・宿泊の予約 通関の手配 車両の手配 (ガードマン・警察官の手配)	
	経由地の在外公館・事務所に便宜供与依頼		機材積換え ホテル確保 チャーター便の手配	
	日程表の作成	旅行代理店に依頼	日程表	
	業務調整員へブリーフィング	時間があれば	現地業務費 留意事項	
機内持込機材搬出（事務局→成田へ）	リスト作成・総数確認（機路にも必要となる）	OA機器 ベスト 隊員配布ファイル (マラリア予防薬)		
(JICA職員の公用旅券受領) ※忘れやすい	派遣支援センター渡航班で保管：時間外も可	JICA派遣職員への手渡し（OPマニュアル参照）		
成田空港へ出発	最低2名	移動		
実施決裁 条件・個人データ入力	災害状況、要請内容、派遣目的、チーム構成、旅程、経費明細を明記	起案 緊援隊メニューへの入力		
推薦依頼	事前に必要な書類を所属先に確認	文部省、厚生労働省		
ニュースリリース	広報課に依頼	結団式もリリース		
旅行傷害保険、戦争特約の連絡		リスト→旅行代理店		
HPへの掲載		「お知らせ」への掲載 HPの更新	V.0500Cへの記載	
結団式	未場者確認	隊員、支援委員、マスコミ、理事、外務省		
	司会・進行		委任状 式次第 プレス用資料（隊員リスト）	
	隊員への配布	旅行代理店→航空券 入国・出国カード	概算旅費・領収書 配布ファイル ベスト	
	マスコミ対応	団長、副団長へのインタビュー有り		
出発後	隊員への説明		被災状況等 留意事項	
	機内持込機材のメンバー携行依頼		機内持込荷物確認	
	携行機材の確認	携行機材のタグ（個人携行を含む）を業務調整員へ	通関・搭乗の確認	
	最新被災状況確認	web、事務所	業務調整員に連絡	現地の活動と本邦からの支援
現地到着後	OCHAレポートのチェック			V.0500Cへの記載
	HPの更新		HPの活動状況を随時更新	
	チーム・事務所との定時連絡	24h連絡体制 救助チーム：現地出発まで 医療チーム：最低当初3日間 ※爾後、時間外は適宜携帯で対応&シフト体制	連絡網の整備 活動状況把握 生活環境確認 活動報告書の作成	本邦支援体制（シフト体制） 広報戦略（多くの情報提供）
	帰国日程の決定	旅行代理店にflight reconfirmation	留守宅・所属先への送付	
派遣後期	機材返送準備	医療は通常携行、救助チームは別送の可能性大	ケースにより、JICA事務所へフライト予約 事務所にアナコンor貨物依頼	
	解団式準備	事務局から最低1-2名	MOFA、理事、支援委員長・部会長の参加の確認 式次第、マスコミ用資料 特別室予約-KSA	
	帰国フライトの再確認	遅延・予定時間前到着の可能性確認	関係者へ変更の連絡	
	機材受取準備	必要書類の確認	成田税関への通報 西濃シエンカーへの連絡	
メンバーの帰国時国内旅行の便宜供与	成田→自宅or職場	ホテル、フライト予約など		

解 団 式	会場確認		支援委員・マスコミ、理事、外務省ほか	マスコミ対応
	解団式 司会・進行	マスコミ対応も含む		
	書類の配布・回収		航空券半券の回収 PDMの回収 アンケートの回収 旅費精算書類の配布	
	返送機材・同時携行機材の確認	倉庫管理会社車両待機依頼（場所指示）	成田倉庫移送	
	OA機器の事務局移送	手荷物	OA機器の総数	
帰 国 後	帰国報告会開催	日程調整、会場予約、報告資料取りまとめ	所属先・隊員への通知	
	別便返送機材引取り		倉庫管理会社への連絡・通関手配	
	返送携行機材の点検・補充		補充品の確認、リスト作成、購入手続き 整備点検を業者へ依頼	
	旅費等精算	旅費精算書類の作成	旅費精算手続き	
		補てん書類の作成	所属先補てん手続き	
		立替払い請求書作成	健康診断料の支払い（立替払い）	
	国際緊急援助手当の支給	決裁、支出負担行為書	決裁、支出負担行為書	
	報告書取りまとめ	活動報告書 評価報告書	原稿取りまとめ、校正 作成決裁 印刷製本、関係者配布	
	労災加入手続き	所属先補てん金額確定後・労災適用確定決裁・所属先通知	決裁添付書類作成・実績簿・厚生Gへの提出・文書発信	
	JICA感謝状発行	所属先・本人	感謝状作成、発送	
	外務大臣表彰	外務省担当	各隊員への案内補助	
	天皇拝謁	外務省担当	各隊員への案内補助	
その他（桜を見る会など）	外務省担当	各隊員への案内補助		

資料5 派遣ごとの工夫・改善点

被災国	災害	発生日	チーム	問題点	改善点
アルジェリア	地震	2003年5月21日	救助	医療班との連携のあり方	この派遣意向医療班との連携について各種研修等で積極的に取り扱われるようになった
			医療	夜間診療の実施の可否についての問題	このオペレーションの事例をもとに課題検討会で夜間診療の指針が策定された
			専門家		
イラン	地震	2003年12月26日	医療	① 医療資材が一次紛失するという事態が発生 ② 大規模化の必要性が指摘された ③ 日本のNGOへの活動の引継ぎ	① 研修などで、不測事態対応という概念が導入されて機能の強化を図ることとなった。 ② 大規模化でなく機能拡充という考え方の整理がなされ、具体的な体制整備につなげられた。 ③ 日本のNGOへの引継ぎが有効な手段であることが確認された
モロッコ	救助	2004年2月24日	救助	マスコミ情報の正確な把握の必要性	INISARAGの場でこの問題を提議し国際的に話し合うとともに、ジータス（Virtual OSOCCにあるサイエンティフィック部分）の開発にその要素を盛り込んだ。
スリランカ	スマトラ沖大地震	2004年12月26日	医療		
タイ			救助	① 救助チームの派遣期間の問題 ② 救助チームの活動範囲	①②の問題に対して技術検討会を立ち上げ検討する体制を構築した
モルディブ			専門家	身元確認（鑑識）専門家の資格と業務の可能な範囲：国際機関ではドクターの資格が必要であったりし、日本の専門化が活動しにくい部分があった。	身元確認（鑑識）専門家派遣における学会との連携の必要性を確認し、体制を確保した
インドネシア	医療	① 治安問題地域への派遣 ② 自衛隊部隊への引継ぎ ③ 隊員の健康管理	① 安全8原則により対応する事例を作れた ② 自衛隊との意識的な連携を実現するための意見交換の必要性を確認しあい、定期連絡会を開催するに至った。 ③ 隊員の健康管理のシステムの導入が検討され、健康管理主任のを指名することが決定された		
インドネシア・ニース島	地震	2005年3月29日	医療	被災国内における被災地までの移動手段の確保が極めて困難であったことに起因するオペレーションの困難性	帰国報告会でこのようなオペレーションにおいても基本チーム構成に則って派遣し、後方支援の充実などの必要性が指摘され、共通認識とされた
パキスタン	地震	2005年10月8日	救助	省略	省略
インドネシア・ジャワ島	地震	2006年5月27日	医療	① 看護師の被災地でのより一層の機能強化 ② 災害規模に連動した情報収集の体制の欠如	① 看護師の活動範囲の見直しを研修を通じて実施するようになった。 ② 「ルールを守ってすばやい派遣」システムの構築
フィリピン	油流出	2006年8月11日	専門家	被災国側の指揮命令系統の適切な把握の重要性	災害対策本部と比国会場警備隊の2つの組織の指揮命令系統が錯綜して存在していたために適切な支援が困難となった

資料6 現地調査収集資料リスト

<インドネシア>

	資料名	媒体	入手先
1	LESSON LEARNT PENANGANAN KRISIS KESEHATAN AKIBAT GEMPA BUMI DE PROVINSI D.I. YOGYAKARTA DAN JAWA TENGAH 27 MEI 2006	冊子	DHQ病院
2	RUMAH SAKIT PKU MUHAMMADIYAH BANTUL	冊子	DHQ病院
3	地震後の病院の状況	DVD	DHQ病院
4	DHQ病院PROFILE	データ	DHQ病院
5	SATU JOGJA UNTUK SEMUA	VIDEO CD	MEDIA
6	AN EXPERIMENT NAMED MADIA	冊子	MEDIA
7	COMMUNITY EMPOWERMENT PROGRAM(CEP) FOR YOGYAKARTA AND ENTRAL JAVA EARTHQUAKE REHABILITATION AND RECONSTRUCTION PROGRAM	紙	SEKNEG
8	Mobi Rehabilitation by Empowering Local Community to Support Recovery Of People Affected by Mqay 27th 2006 Earthquake in Bantul District Yoghakarta Special Province	冊子	ガジヤマダ大学
9	質問票回答	紙	ジョグジャカルタ州保健局
10	LAPORAN PENENGANAN BENCANA GEMPABUMI D.I. YOGYAKARTA DAN JAWA TENGAH	紙	BAKORNAS
11	Japan's Assistance in Response to the Earthquake in Central	紙	日本大使館
12	Disabled earthquake victims learn new skills (The Jakarta Post, Monday, June 25, 2007)	紙	JICA事務所
13	半身不随の被災者を看護 (The Daily Jakarta Shinbun, 2007年5月31日)	紙	JICA事務所
14	TECHNICAL GUIDELINES FOR HEALTH CRISIS RESPONSE ON DISASTER	冊子	保健省

<パキスタン>

	資料名	媒体	入手先
1	ERRA Documentary, May 2007	DVD	ERRA
2	Rebuild & Revive Hope	冊子・DVD	ERRA
3	Annual Review 2005 to 2006	冊子	ERRA
4	PROGRESS REPORT AS ON 10 JUNE 2007	冊子	ERRA
5	BLIEF-DIGNATORIES	データ	ERRA
6	NATIONAL TRAINIG COURSE ON DISASTER MANAGEMENT 2	DVD	Ayub Medical College Abottabad
7	CONTRACT PACKAGE NO.3 RECONSTRUCTION OF DHQ HOSPITAL BATTAGRAM FROM GOVT & PEOPLE OF JAPAN	紙	JICS
8	質問票回答	紙	Save the Children
9	IN THE NAME OF ALLAH, THE BENEFISIENT, THE MERCIFUL	紙	バタグラム県事務所
10	地震の写真	DVD	JICA事務所

